



図1 被災地市町村(続き番号)、社会学の研究者がフィールドワークを実施してきた32市町村(📍)と本研究で例示する地域11市町村(★)

No	県	市町村	発表者・著者名	発行年月	タイトル	出版社	地域メモ
1	岩手県	洋野町	後藤一蔵	2014年10月	消防団—生い立ちと壁、そして未来	近代消防社、新書版	兵庫県北丹町、新潟県中越、島根県松江市、兵庫県佐用町、岩手県宮古市、岩手県洋野町、宮城県東松島市
2	岩手県	久慈市					
3	岩手県	野田村	弘前大学人文学部ボランティアセンター	2012年2月	チーム・オール弘前の一年—岩手県野田村の復興支援・交流活動の記録	弘前大学出版会	岩手県野田村
4	岩手県	野田村	弘前大学震災研究交流会編	2013年9月	東日本大震災 弘前大学からの展望[2011-2012]それぞれの3.11	弘前大学出版会	青森県、岩手県九戸郡野田村
5	岩手県	野田村	山口恵子・瀧美公秀・永田素彦・作道信介編	2013年3月	「聴き書き 野田村の震災の記録」	北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究報告書	
6	岩手県	野田村	山下祐介・三上真史	2013年5月	「津波被災地の社会的被害の分析と課題——岩手県野田村の事例から」	『地球環境』18(1)	
7	岩手県	野田村	平井太郎	2013年9月	「地域移動と復興感」	『野田村の皆さまの暮らしとお仕事に関するアンケート調査報告書』43-56	
8	岩手県	普代村					
9	岩手県	田野畑村					
10	岩手県	岩泉町					
11	岩手県	宮古市	金菱清 編 東北学院大学 震災の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
12	岩手県	宮古市	後藤一蔵	2014年10月	消防団—生い立ちと壁、そして未来	近代消防社、新書版	兵庫県北丹町、新潟県中越、島根県松
13	岩手県	山田町	岩間信之・田中耕市・浅川達人・佐々木緑・駒木伸比古	2014年1月	「商業機能の郊外化と買い物環境：岩手県山田町」	『地理』1月号, 14-21	
14	岩手県	山田町	岩間信之・田中耕市・浅川達人・佐々木緑・駒木伸比古	2014年1月	商業機能の郊外化と買い物環境：岩手県山田町	地理 59(1), 14-21(特集 復興支援 地理学の役割)	
15	岩手県	大槌町	金菱清 編 東北学院大学 震災の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
16	岩手県	大槌町	浦野正樹、野坂真、吉川忠寛、大矢根淳、秋吉恵	2013年4月	津波被災地の500日：大槌・石巻・釜石にみる暮らし復興への困難な歩	早稲田大学出版部	岩手県大槌町、宮城県石巻市、宮城県釜石市
17	岩手県	大槌町	浅川達人	2012年3月	東日本大震災復興支援活動と地域再生—岩手県大槌町吉里吉里地区	『明治学院大学社会学・社会福祉学研究』138, 1-17	
18	岩手県	大槌町	浅川達人	2012年10月	東日本大震災復興支援活動と地域再生—岩手県大槌町吉里吉里を事	『学術の動向』17-10, 70-75	
19	岩手県	大槌町	浅川達人	2013年3月	『吉里吉里語辞典』アーカイブ化プロジェクト—その社会的意義について	『Socially』vol.21, pp.15-20	
20	岩手県	大槌町	麦倉哲・飯坂正弘・梶	2013年3月	東日本大震災被災地域にみられた救援・助け合いの文化— 岩手県大	『岩手大学教育学部附属教育実践総合	
21	岩手県	大槌町	浅川達人	2014年3月	文化の復興に関する考察—『吉里吉里語辞典』アーカイブ化プロジェク	『災後の社会学』2, 3-11.	
22	岩手県	大槌町	大矢根淳	2016年11月	サステナブルな防災社会構築のための新基軸～コミュニティにおけるレ	『専修大学社会科学研究所月報』第641	岩手県、大槌町
23	岩手県	大槌町	野坂真	2016年5月	岩手県大槌町における東日本大震災津波前後の災害過程—地域コミ	『日本都市学会年報』Vol.49, pp.253-	
24	岩手県	大槌町	野坂真	2017年3月	地方における災害復興の再検討—東日本大震災津波前後の大槌町に	『第2回東日本大震災研究交流会研究	
25	岩手県	大槌町	野坂真	2018年3月	記憶の忘却・継承から見た災害の被害構造と復興—岩手県大槌町にお	『第3回東日本大震災研究交流会研究	
26	岩手県	大槌町	野坂真・麦倉哲・浅川	2018年6月	災害復興公営住宅入居者における「生活」再建上の諸課題—岩手県大	『日本都市学会年報』Vol.51, pp.241-	
27	岩手県	大槌町	麦倉哲・浅川達人・野	2018年6月	岩手県大槌町災害復興公営住宅入居者の精神の健康状態—WHO-5	『日本都市学会年報』Vol.51, pp.375-	

28	岩手県	大槌町	岩手県大槌町「生き	2017年3月	平成28年度 生きた証—東日本大震災犠牲者回顧録	大槌町	
29	岩手県	大槌町	岩手県大槌町「生き	2018年3月	平成29年度 生きた証—東日本大震災犠牲者回顧録	大槌町	
30	岩手県	大槌町	安渡町内会安渡地域	2018年3月	安渡地域アーカイブ実行委員会活動記録誌 2017年度		
31	岩手県	大槌町	Shin Nozaka and	2018年7月	Advice for City Planning Disaster Preparation Based Investigations of	Global Conference on the International	
32	岩手県	大槌町	野坂真	2018年	災害後の地域社会における高齢者の生きがいづくりと経験・記憶の継承	『ジェロントロジー研究報告』No.12、	
33	岩手県	大槌町	浅川達人	2016年1月	『実験室』としての津波被災地—災害リスクはコミュニティに共同性を創	『研究所年報』明治学院大学社会学部	
34	岩手県	大槌町	浅川達人	2017年2月	東日本大震災津波被災地の25年後の姿—人口分析&予測プログラム	『研究所年報』明治学院大学社会学部	
35	岩手県	大槌町	浅川達人	2018年3月	食品摂取多様性調査による分析—大槌町災害復興公営住宅入居者調	『研究所年報』, 第48号, pp.143-149	
36	岩手県	釜石市	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
37	岩手県	釜石市	浦野正樹、野坂真、 吉川忠寛、大矢根 淳、秋吉恵	2013年4月	津波被災地の500日: 大槌・石巻・釜石にみる暮らし復興への困難な歩	早稲田大学出版部	岩手県大槌町、宮城県石巻市、宮城県 釜石市
38	岩手県	釜石市	東大社研・中村尚史 ・玄田有史(編)	2014年12月	〈持ち場〉の希望学—釜石と震災、もう一つの記憶	東京大学出版会	岩手県釜石市
39	岩手県	釜石市	吉野英岐	2013年11月	「復興過程における住民自治のあり方をめぐって—岩手県釜石市の事例	『地方自治叢書 参加・分権・ガバナンスと地方自治』第26集、敬文堂	
40	岩手県	釜石市	西野淑美・大堀研・秋 田典子	2012年5月	岩手県釜石市民の被災実態と復興への示唆: 東日本大震災後の意識	日本都市学会年報45, 141-149	
41	岩手県	釜石市	大堀研	2013年5月	災害後の住民参加に関する研究—岩手県釜石市の事例—	『地域社会学会年報(リスケーリング論とその日本的文脈)』25 .	
42	岩手県	大船渡市	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
43	岩手県	大船渡市	川村千鶴子	2012年3月	3.11後の多文化家族—未来を拓く人びと	明石書店	陸前高田市、大船渡市、いわき市、神奈 川県いちょう団地
44	岩手県	大船渡市	神戸学院大学東日本 大震災災害支援対策 本部編	2012年3月	東日本大震災復旧・復興に向けて: 神戸学院大学からの提言	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙 台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩 手県大船渡市、兵庫県、神戸市
45	岩手県	大船渡市	TKK3大学連携プロ ジェクト「学生ボラン ティア活動記録集」編 集委員会	2012年3月	私たちから伝えたいこと: 東日本大震災被災地復興支援ボランティア: TTKボランティア活動記録集		宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙 台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩 手県大船渡市、兵庫県、神戸市
46	岩手県	大船渡市	神戸学院大学学際教 育機構 防災・社会 貢献ユニット編	2012年3月	災害ボランティアを考える: 東日本大震災ノート災害ボランティアを考え	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙 台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩 手県大船渡市、兵庫県、神戸市
47	岩手県	大船渡市	阿部晃士・堀籠義裕・ 茅野恒秀	2013年5月	大船渡市における震災9カ月後の生活と意識—復興過程に関するパネ	『総合政策』14(2),149-160	
48	岩手県	大船渡市	阿部晃士・堀籠義裕・ 茅野恒秀	2013年3月	被災地における郵送調査の実施過程—岩手県大船渡市での取り組み—	『社会と調査』10号: 76-80頁	
49	岩手県	大船渡市	岩手県立大学総合政 策学部震災復興研究 会社会調査チーム	2013年3月	『復興に関する大船渡市民の意識調査 第1次調査報告書』		
50	岩手県	大船渡市	茅野恒秀・阿部晃士	2013年7月	「大船渡市における復興計画の策定過程と住民参加」	『社会学年報』42, 31-42.	

51	岩手県	陸前高田市	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
52	岩手県	陸前高田市	川村千鶴子	2012年3月	3.11後の多文化家族—未来を拓く人びと	明石書店	陸前高田市、大船渡市、いわき市、神奈川県いちょう団地
53	岩手県	陸前高田市	日本地域福祉学会 東日本大震災復興支 援・研究委員会	2015年7月	東日本大震災と地域福祉—次代への継承を探る	中央法規	岩手県陸前高田市、宮城県仙台市、福島県、茨城県北茨城市大津町、新潟県長岡市、札幌市、首都圏
54	岩手県	陸前高田市	似田貝香門・吉原直 樹(編)	2015年8月	連帯経済とコミュニティ再生(震災と市民1)	東京大学出版会	
55	岩手県	陸前高田市	牧野友紀	2012年9月	東日本大震災の津波被災地における小経営の存立と家族構成—岩手	『社会学研究』91, 175-194、東北社会学研究会.	
56	岩手県	陸前高田市	宮城孝・藤賀雅人・山 本俊哉・仁平典宏・廣 瀬克也	2013年3月	「被災住民のエンパワメント形成支援による地域再生の可能性と課題」	法政大学現代福祉学部『現代福祉研究』13号 pp.99-125	
57	岩手県	陸前高田市	谷下雅義	2012年4月	「陸前高田ふるさと再生の支援:千年を見据えて(前編・後編)」	『Chuo Online』「オピニオン」コーナ」	
58	宮城県	気仙沼市	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
59	宮城県	気仙沼市	神戸学院大学東日本 大震災災害支援対策 本部編	2012年3月	東日本大震災復旧・復興に向けて:神戸学院大学からの提言	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
60	宮城県	気仙沼市	TKK3大学連携プロ ジェクト「学生ボラン ティア活動記録集」編 集委員会	2012年3月	私たちが伝えたいこと:東日本大震災被災地復興支援ボランティア:TKKボランティア活動記録集		宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
61	宮城県	気仙沼市	神戸学院大学学際教 育機構 防災・社会 貢献ユニット編	2012年3月	災害ボランティアを考える:東日本大震災ノート災害ボランティアを考え	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
62	宮城県	気仙沼市	東北学院大学トポフィ リアプロジェクト(植田 今日子代表)編	2013年8月	更地の向こう側—解散する集落「宿」の記憶地図	かもがわ出版:120頁	宮城県気仙沼市唐桑町宿
63	宮城県	気仙沼市	植田今日子	2012年7月	なぜ集団移転地は海が見えるところでなければならないのか—気仙沼	『季刊震災学』1, 22-48	
64	宮城県	気仙沼市	植田今日子	2014年10月	来住者を閉ざした津波常習集落—津波で解散する気仙沼市唐桑	理論と動態 7, 92-116	
65	宮城県	気仙沼市	植田今日子	2012年11月	なぜ被災者が津波常習地へと帰るのか—気仙沼市唐桑町の海難史の	『環境社会学研究』18, 有斐閣, 60-81	
66	宮城県	気仙沼市	中澤秀雄	2013年9月	「東日本大震災2年後のソーシャル・ケアとレジリエンス—気仙沼市面	『年報社会学論集』関東社会学会, 26, 17-27	
67	宮城県	気仙沼市	野坂真	2015年10月	宮城県気仙沼市における地域産業復興の実態把握と促進要因に関する	『地域安全学会東日本大震災特別論文 集』No.4、pp.19-24	
68	宮城県	南三陸町	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
69	宮城県	南三陸町	花田達朗+教育学部 花田ゼミ	2012年5月	新聞は大震災を正しく伝えたか—学生たちの紙面分析	早稲田大学出版部	

70	宮城県	南三陸町	谷下雅義・樋口葵・小池洋平	2013年12月	「さんさんびと：南三陸町の人々から学ぶ」	http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/education/20131205.htm	
71	宮城県	南三陸町	谷下雅義・浅田拓海	2014年7月	東北地方太平洋沖地震津波による南三陸町行政区別犠牲者率	土木学会論文集A1(構造・地震工学)70(4), 66-70	
72	宮城県	石巻市	金菱清 編 東北学院大学 震災の記録プロジェクト	2012年2月	3.11 慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
73	宮城県	石巻市	神戸学院大学東日本大震災災害支援対策本部編	2012年3月	東日本大震災復旧・復興に向けて：神戸学院大学からの提言	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
74	宮城県	石巻市	TKK3大学連携プロジェクト「学生ボランティア活動記録集」編集委員会	2012年3月	私たちから伝えたいこと：東日本大震災被災地復興支援ボランティア：TKKボランティア活動記録集		宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
75	宮城県	石巻市	神戸学院大学学際教育機構 防災・社会貢献ユニット編	2012年3月	災害ボランティアを考える：東日本大震災ノート災害ボランティアを考える	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
76	宮城県	石巻市	花田達朗＋教育学部花田ゼミ	2012年5月	新聞は大震災を正しく伝えたか—学生たちの紙面分析	早稲田大学出版部	
77	宮城県	石巻市	浦野正樹、野坂真、吉川忠寛、大矢根淳、秋吉恵	2013年4月	津波被災地の500日：大槌・石巻・釜石にみる暮らし復興への困難な歩	早稲田大学出版部	岩手県大槌町、宮城県石巻市、宮城県釜石市
78	宮城県	石巻市	大矢根淳	2011年8月	震災地復興の主体と条件—生活再建とコミュニティづくりに向けての覚	東北芸術工科大学東北文化研究センター編『季刊東北学 特集：地震・津波・原発—東日本大震災』第2期・28(2011年夏), 183-193, 柏書房.	
79	宮城県	石巻市	大矢根淳	2012年11月	被災へのまなざしの叢生過程をめぐって—東日本大震災に対峙する被災	環境社会学研究18(特集 環境社会学にとって「被害」とは何か), 96-111	
80	宮城県	石巻市	所澤新一郎・佐藤慶一・大矢根淳	2018年6月	復興ステークホルダーの探索的再構築に関する研究実践—被災地・石	『専修大学社会科学研究所月報』第660	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
81	宮城県	石巻市	大矢根淳	2015年12月	小さな浜のレジリエンス—東日本大震災・牡鹿半島小湊の経験から	『新しい人間 新しい社会—復興の物語を再創造する—』清水展・木村周平編著、京都大学学術出版会	宮城県石巻市小湊
82	宮城県	石巻市	中島正裕・川副早央里・塩田光・大矢根淳	2015年9月	宮城県石巻市における仮設住宅団地の生活実態—東日本大震災発生	『農村計画学会誌』Vol34, No.2	宮城県石巻市
83	宮城県	石巻市	井上治代	2013年3月	東日本大震災による被災遺族の死の受容・葬送儀礼・霊魂観—石巻調査より		
84	宮城県	女川町	辻岳史	2016年7月	災害復興過程における住民参加の規定要因—東日本大震災後の宮城	『日本災害復興学会論文集』日本災害復興学会, 9, 1-10	
85	宮城県	女川町	辻岳史	2017年7月	東日本大震災後の原発立地地域住民の原発への態度—宮城県女川町	『東海社会学年報』東海社会学会, 9, 107-119	
86	宮城県	女川町	辻岳史	2017年10月	Anxiety among Residents over Nuclear Plants in its Location Area after	Full Paper of 6th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia	

87	宮城県	女川町	椋山女学園大学・黒田由彦研究室	2018年3月	女川町における防災と生活再建に関する住民意識調査調査報告書	椋山女学園大学文化情報学部黒田由彦研究室	
88	宮城県	東松島市	金菱清 編 東北学院大学 震災の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
89	宮城県	東松島市	神戸学院大学東日本大震災災害支援対策本部編	2012年3月	東日本大震災復旧・復興に向けて：神戸学院大学からの提言	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
90	宮城県	東松島市	TKK3大学連携プロジェクト「学生ボランティア活動記録集」編集委員会	2012年3月	私たちが伝えたいこと：東日本大震災被災地復興支援ボランティア：TKKボランティア活動記録集		宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
91	宮城県	東松島市	神戸学院大学学際教育機構 防災・社会貢献ユニット編	2012年3月	災害ボランティアを考える：東日本大震災ノート災害ボランティアを考え	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
92	宮城県	東松島市	後藤一蔵	2014年10月	消防団一生涯立ちと壁、そして未来	近代消防社、新書版	兵庫県北丹町、新潟県中越、島根県松江市、兵庫県佐用町、岩手県宮古市、岩手県洋野町、宮城県東松島市
93	宮城県	東松島市	辻岳史	2014年3月	仙台平野型混住地域におけるコミュニティの再編と機能回復—東日本大震災	『名古屋大学社会学論集』名古屋大学社会学会, 34, 1-32	
94	宮城県	東松島市	辻岳史	2016年3月	津波被災地域の寺社・祭礼と災害支援ネットワーク—東日本大震災・東	『災後の社会学』震災科研プロジェクト, 4, 11-26	
95	宮城県	東松島市	辻岳史	2016年8月	漁村コミュニティの象徴と社会組織—東日本大震災後の東松島市大曲	『東海社会学会年報』東海社会学会, 8, 93-106	
96	宮城県	松島町	神戸学院大学東日本大震災災害支援対策本部編	2012年3月	東日本大震災復旧・復興に向けて：神戸学院大学からの提言	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
97	宮城県	松島町	TKK3大学連携プロジェクト「学生ボランティア活動記録集」編集委員会	2012年3月	私たちが伝えたいこと：東日本大震災被災地復興支援ボランティア：TKKボランティア活動記録集		宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
98	宮城県	松島町	神戸学院大学学際教育機構 防災・社会貢献ユニット編	2012年3月	災害ボランティアを考える：東日本大震災ノート災害ボランティアを考え	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
99	宮城県	利府町					
100	宮城県	塩竈市	金菱清 編 東北学院大学 震災の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
101	宮城県	七ヶ浜町	金菱清 編 東北学院大学 震災の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
102	宮城県	多賀城市	金菱清 編 東北学院大学 震災の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県

103	宮城県	仙台市	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
104	宮城県	仙台市	神戸学院大学東日本 大震災災害支援対策 本部編	2012年3月	東日本大震災復旧・復興に向けて：神戸学院大学からの提言	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙 台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩 手県大船渡市、兵庫県、神戸市
105	宮城県	仙台市	TKK3大学連携プロ ジェクト「学生ボラン ティア活動記録集」編 集委員会	2012年3月	私たちが伝えたいこと：東日本大震災被災地復興支援ボランティア：TKKボランティア活動記録集		宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙 台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩 手県大船渡市、兵庫県、神戸市
106	宮城県	仙台市	神戸学院大学学際教 育機構 防災・社会 貢献ユニット編	2012年3月	災害ボランティアを考える：東日本大震災ノート災害ボランティアを考え	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙 台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩 手県大船渡市、兵庫県、神戸市
107	宮城県	仙台市	日本地域福祉学会 東日本大震災復興支 援・研究委員会	2015年7月	東日本大震災と地域福祉—次代への継承を探る	中央法規	岩手県陸前高田市、宮城県仙台市、福 島県、茨城県北茨城市大津町、新潟県 長岡市、札幌市、首都圏
108	宮城県	仙台市	立教大学社会学部社 会調査グループ	2014年3月	『生活と防災についての仙台仙北意識調査報告書—震災被害と社会階	2011~2013年度立教大学学術推進特別 重点資金(立教SFR)東日本大震災・復 興支援関連研究 成果報告	
109	宮城県	名取市	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
110	宮城県	名取市	神戸学院大学東日本 大震災災害支援対策 本部編	2012年3月	東日本大震災復旧・復興に向けて：神戸学院大学からの提言	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙 台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩 手県大船渡市、兵庫県、神戸市
111	宮城県	名取市	TKK3大学連携プロ ジェクト「学生ボラン ティア活動記録集」編 集委員会	2012年3月	私たちが伝えたいこと：東日本大震災被災地復興支援ボランティア：TKKボランティア活動記録集		宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙 台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩 手県大船渡市、兵庫県、神戸市
112	宮城県	名取市	神戸学院大学学際教 育機構 防災・社会 貢献ユニット編	2012年3月	災害ボランティアを考える：東日本大震災ノート災害ボランティアを考え	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙 台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩 手県大船渡市、兵庫県、神戸市
113	宮城県	名取市	島村恭則	2012年3月	「名取市下増田北釜」	高倉浩樹・滝澤克彦・政岡伸洋編『東日 本大震災に伴う被災した民俗文化財調 査2011年度報告集(宮城県地域文化遺 産復興プロジェクト)』東北大学東北アジ ア研究センター、50-65頁	
114	宮城県	名取市	尚綱学院大学総合人 間科学部現代社会学 科	2012年3月	2011年度「社会調査(地域活性構想)実習」報告書		
115	宮城県	名取市	内田龍史	2013年12月	「仮設住宅住民の現状と今後の展望——名取市・岩沼市を事例として、	『尚綱学院大学紀要』66,105-118	
116	宮城県	名取市	内田龍史	2014年7月	被災地域と向きあう社会調査実習—東日本大震災後3年を経過	尚綱学院大学紀要 67, 10-14	
117	宮城県	岩沼市	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県

118	宮城県	岩沼市	内田龍史	2013年12月	「仮設住宅住民の現状と今後の展望——名取市・岩沼市を事例として」	『尚綱学院大学紀要』66,105-118	
119	宮城県	亘理町	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
120	宮城県	山元町	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
121	福島県	新地町					
122	福島県	相馬市	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
123	福島県	相馬市	齊藤康則	2012年	「原発被災地における〈逗留者〉の「活動の論理」——原発45km圏＝村	『震災学』創刊号1, 156-185、荒蝦夷.	
124	福島県	相馬市	植田今日子	2013年7月	「なぜ大災害の非常事態下で祭礼は遂行されるのか：東日本大震災後	『社会学年報』42, 43-60頁	
125	福島県	南相馬市	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
126	福島県	南相馬市	関満博	2014年12月	東日本大震災と地域産業復興 IV 2013.9.11～2014.9.11「所得、雇用、	新評論	
127	福島県	南相馬市	高橋 準	2014年7月	「移住者」たちの震災体験—2013年南相馬調査から	行政社会論集 27(1), 87-109	
128	福島県	南相馬市	高橋準・加藤眞義編	2014年3月	『東日本大震災後の福島県における農家民宿と地域社会—2013年南相	(福島大学行政政策学類専攻入門科目 社会と文化C, 年次報告書)	
129	福島県	南相馬市	中山弘・大門信也	2014年3月	「南相馬市における「ソーラーシェアリング」のとらえ方」	『サステナビリティ研究』4, 17-25.	
130	福島県	南相馬市	関満博	2016年3月	東日本大震災と地域産業復興 V 2014.9.11～2016.3.11福島の被災中	新評論	
131	福島県	浪江町	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
132	福島県	大熊町	金菱清 編 東北学院大学 震災 の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
133	福島県	大熊町	吉原直樹	2013年11月	「原発さまの町」からの脱却—大熊町から考えるコミュニティの未来	岩波書店	福島県大大熊町
134	福島県	富岡町	山下祐介・開沼博編	2012年3月	「原発避難」論—避難の実像からセカンドタウン故郷再生まで	明石書店	福島県、首都圏、岡山県
135	福島県	富岡町	山本薫子・高木竜輔・ 佐藤彰彦・山下祐介	2015年6月	原発避難者の声を聞く—復興政策の何が問題か	岩波書店【岩波ブックレット】	福島県富岡町
136	福島県	富岡町	山本薫子	2012年7月	町民が口にした脱原発運動への違和感 富岡町から避難して	『週刊金曜日』905, 28-29	
137	福島県	富岡町	佐藤彰彦・高木竜輔・ 山本薫子・山下祐介	2013年5月	「原発避難をめぐる社会調査と研究者の役割——社会学広域避難研	『災害後の社会学』No.1: 35-46.	
138	福島県	富岡町	松蘭祐子	2013年4月	「警戒区域からの避難をめぐる状況と課題——帰還困難と向き合う富岡	『環境と公害』第42巻第4号: 31-36、岩 波書店.	
139	福島県	富岡町	松本行真	2015年	原発事故避難者による広域自治会の形成と実態—福島県双葉郡	吉原直樹・松本行真・仁平義明編著 『東日本大震災と被災・避難の生活 記録』六花出版、pp469-499.	
140	福島県	富岡町	佐藤彰彦	2013年12月	「原発避難者を取り巻く問題の構造—タウンミーティング事業の取り組	『社会学評論』, 64(3):439-459	
141	福島県	富岡町	松蘭祐子	2016年3月	「二つのコミュニティを生きること」の意味—原発避難者の事例にみる	『淑徳大学紀要』50, 15-30	
142	福島県	富岡町	松蘭祐子	2016年9月	原発避難者の生活再編と地域再生の課題—福島県富岡町の事例から	『都市社会学年報』34, 25-39	
143	福島県	富岡町	松蘭祐子	2016年12月	被災者家族の離散と統合の課題—原発避難者の5年間からみる家族	『難民研究ジャーナル』6, 69-80	

144	福島県	檜葉町	大橋保明・高木竜輔	2012年3月	「東日本大震災における檜葉町の災害対応(3)——教育機能の維持・再	『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』10, 63-74	
145	福島県	檜葉町	柳澤孝主・菊池真弓	2012年3月	「東日本大震災における檜葉町の災害対応(2)——避難先における福	『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』10, 52-62	
146	福島県	檜葉町	菅野昌史・高木竜輔	2012年3月	「東日本大震災における檜葉町の災害対応(1)——コミュニティの再生に	『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』10, 36-51	
147	福島県	檜葉町	高木竜輔	2013年4月	「長期避難における原発避難者の生活構造——原発事故から1年後の	『環境と公害』42(4), 25-30、岩波書店.	
148	福島県	檜葉町	高木竜輔・石丸純一	2014年3月	「原発事故に伴う檜葉町民の避難生活—1年後の生活再建の実相」	『いわき明星大学人文学部研究紀要』27, 22-39	
149	福島県	檜葉町	高木竜輔・森丈弓・窪田文子	2014年3月	「高校生のストレス反応に及ぼす原発避難の影響(1)調査結果の概要」	『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』12, 79-88	
150	福島県	檜葉町	窪田文子・森丈弓・高木竜輔	2014年3月	「高校生のストレス反応に及ぼす原発避難の影響(2)避難生活における	『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』12, 89-99	
151	福島県	広野町	高木竜輔	2015年6月	「復興政策と地域社会——広野町の商工業からみる課題」	『原発災害はなぜ不均等な復興をもたらすのか——福島事故からの「人間の復興」、地域再生へ』	商工事業者
152	福島県	いわき市	金菱清 編 東北学院大学 震災の記録プロジェクト	2012年2月	3.11 慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
153	福島県	いわき市	山下祐介・開沼博編	2012年3月	「原発避難」論—避難の実像からセカンドタウン故郷再生まで	明石書店	福島県、首都圏、岡山県
154	福島県	いわき市	神戸学院大学東日本大震災災害支援対策本部編	2012年3月	東日本大震災復興・復興に向けて：神戸学院大学からの提言	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
155	福島県	いわき市	TKK3大学連携プロジェクト「学生ボランティア活動記録集」編集委員会	2012年3月	私たちが伝えたいこと：東日本大震災被災地復興支援ボランティア：TKKボランティア活動記録集		宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
156	福島県	いわき市	神戸学院大学学際教育機構 防災・社会貢献ユニット編	2012年3月	災害ボランティアを考える：東日本大震災ノート災害ボランティアを考え	晃陽書房	宮城県石巻市、名取市、東松島市、仙台市、気仙沼市、松島町、いわき市、岩手県大船渡市、兵庫県、神戸市
157	福島県	いわき市	川副早央里	2012年2月	「東日本大震災のいわき市への影響に関する一考察—〈中心〉と〈周	ソシオロジカルペーパーズ21	
158	福島県	いわき市	川副早央里・浦野正樹	2012年5月	「原発災害の影響と復興への課題—いわき市の地域特性と被災状況の	日本都市学会年報45, 150-159	
159	福島県	いわき市	川副早央里	2013年4月	「原発避難者の受け入れをめぐる状況——いわき市の事例から」〈特集	『環境と公害』42(4), 37-41、岩波書店.	
160	福島県	いわき市	川副早央里	2014年	原子力災害後の政策的線引きによるあつれきの生成—原発避難	早稲田大学総合人文科学研究センター『RILAS JOURNAL』2号)、pp19-30.	
161	福島県	いわき市	川副早央里	2014年	浜通りの震災記憶を紡ぐ—震災アーカイブの取り組みと課題	『いわき明星大学人文学部研究紀要』(27) : 52-60	
162	福島県	いわき市	川副早央里	2015年	東日本大震災に関する震災資料の保存状況に関する考察	早稲田大学大学院院生研究会『ソシオロジカルペーパーズ』(24) : 1-14	

163	福島県	いわき市	川副早央里・高木竜輔	2015年	いわき明星大学震災アーカイブ室の活動と課題	震災問題情報連絡交換会『東日本大震災研究交流会 研究報告書』: 5-8	
164	福島県	いわき市	川副早央里・浦野正樹	2015年	いわき市に避難する原発避難者の生活と意識	吉原直樹・松本行真・仁平義明編著『東日本大震災と被災・避難の生活記録』六花出版、pp521-543 .	
165	福島県	いわき市	川副早央里・浦野正樹	2015年	複合災害下における被害の実相と被災者意識の生成・再編成—	早稲田大学・震災復興研究論集編集委員会編『震災後に考える—東日本大震災と向きあう92の分析と提言』早稲田大学出版部、pp.109-123.	
166	福島県	いわき市	高木竜輔・川副早央里	2016年	福島第一原発事故による長期避難の実態と原発被災者受け入れ	『難民ジャーナル』No.6, pp.23-41.	
167	福島県	いわき市	高木竜輔	2015年3月	原発事故に対するいわき市民の意識構造(1)—東日本大震災・原発	いわき明星大学人文学部研究紀要 28, 65-79	
168	福島県	いわき市	菊池真弓・高木竜輔	2015年3月	原発事故に対するいわき市民の意識構造(2)—原発避難者との	いわき明星大学人文学部研究紀要 28, 81-96	
169	福島県	いわき市	野沢達也・渡辺弘・早川信夫・高木竜輔	2015年3月	いわきのローカルメディアはどう「東日本大震災」を伝えたのか?	いわき明星大学人文学部研究紀要 28, 106-118	
170	茨城県	北茨城市	日本地域福祉学会 東日本大震災復興支援・研究委員会	2015年7月	東日本大震災と地域福祉—次代への継承を探る	中央法規	岩手県陸前高田市、宮城県仙台市、福島県、茨城県北茨城市大津町、新潟県長岡市、札幌市、首都圏
以下は市町村が特定できないもの							
171	青森県	六ヶ所村	船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子	2012年3月	核燃料サイクル施設の社会学—青森県六ヶ所村	有斐閣	青森県
172	青森県		船橋晴俊・金山行孝・茅野恒秀編	2013年2月	「むつ小川原開発・核燃料サイクル施設問題」研究資料集	東信堂	青森県
173	青森県		弘前大学人文学部ボランティアセンター	2012年3月	北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究報告書	HUVC報告書	
174	青森県		平井太郎	2014年4月	20年後の『りんごの涙』—災害と社会変容をめぐる詩学にむけて	『津軽学』第9号	
175	青森県		立石裕二	2013年3月	「書評 船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子著『核燃料サイクル施設の社	『社会学評論』63(4): 624-626	
176	岩手県		河村哲二、岡本哲志、吉野馨子	2013年5月	「3.11」からの再生—三陸の港町・漁村の価値と可能性	御茶の水書房	岩手県沿岸、宮城県沿岸
177	岩手県		金菱清	2014年6月	震災メモリー—第二の津波に抗して	新曜社	岩手県、宮城県、福島県
178	岩手県		山崎憲治・本田敏秋・山崎友子(編)	2014年9月	3.11後の持続可能な社会をつくる実践学—被災地・岩手のレジリエント	明石書店	
179	岩手県		吉野英岐	2012年7月	「東日本大震災後の農山漁村コミュニティの変容と再生—岩手県沿岸	『コミュニティ政策』10, コミュニティ政策学会, 61-84	
180	岩手県		吉野英岐	2012年4月	「沿岸被災地の生活を維持するために必要なこと」	『農業と経済 臨時別冊 大震災と農業・農村—どう立ち向かうか、どう支えるか—』臨時別冊、「農業と経済」編集委員会, 42-48	
181	岩手県		麦倉哲・吉野英岐	2013年12月	「岩手県における防災と復興の課題」	『社会学評論』64(3), 402-419	

182	宮城県		東北学院大学震災の記録プロジェクト金菱清(ゼミナール)編	2013年3月	千年災禍の海辺学 —なぜそれでも人は海で暮らすのか	生活書院 259頁	宮城県沿岸
183	宮城県		河村哲二、岡本哲志、吉野馨子	2013年5月	「3.11」からの再生—三陸の港町・漁村の価値と可能性	御茶の水書房	岩手県沿岸、宮城県沿岸
184	宮城県		金菱清	2014年6月	震災メメントモリ—第二の津波に抗して	新曜社	岩手県、宮城県、福島県
185	宮城県		植田今日子・鳥越皓之	2012年3月	Why do Victims of the Tsunami Return to the Coast?	International Journal of Japanese Sociology, 21(1):21-29	
186	宮城県		高橋征仁	2013年9月	「宮城県民間賃貸住宅入居者健康調査にもとづくレジリエンスの計量分	科学研究費基盤研究(A)「東日本大震災と日本社会の再建」定例研究会, 於: 福島大学サテライト街なかランチ舟場, 2013年9月10日	
187	宮城県	女川町, 東松島市, 名取市	辻岳史	2017年10月	Citizen Participation in the Disaster Reconstruction Process: Lessons	Recovering from Catastrophic Disaster in Asia (Community, Environment and Disaster Risk Management Volume 18), Emerald Group Publishing: 105-126	宮城県(女川町・東松島市・名取市)
188	福島県	飯舘村	金菱清 編 東北学院大学 震災の記録プロジェクト	2012年2月	3.11慟哭の記録 —71人が体感した大津波・原発・巨大地震		宮城県、岩手県、福島県
189	福島県		開沼博	2011年6月	「フクシマ」論—原子力村はなぜ生まれたのか	青土社	福島県
190	福島県		海渡雄一	2011年11月	原発訴訟	岩波書店	福島県
191	福島県		石橋克彦	2011年11月	原発を終わらせる	岩波書店	
192	福島県		長谷川公一	2011年9月	脱原子力社会へ—電力をグリーン化する	岩波新書	アメリカ・サクラメント、ドイツ
193	福島県	飯舘村・双葉郡	山下祐介・開沼博編	2012年3月	「原発避難」論—避難の実像からセカンドタウン故郷再生まで	明石書店	福島県、首都圏、岡山県
194	福島県		吉岡斉	2012年6月	脱原子力国家への道	岩波書店	
195	福島県		開沼博	2012年9月	フクシマの正義—「日本の変わらなさ」との戦い	幻冬舎	福島県、日本
196	福島県		長谷部俊治・船橋晴俊編	2012年9月	持続可能性の危機—地震・津波・原発災害に向き合って	御茶の水書房	三陸、福島県
197	福島県		徳間書店出版局編、内田樹、小熊英二、開沼博、佐藤栄佐久、佐野真一、清水修二、広井良典、辺見庸	2012年11月	この国はどこで間違えたのか —沖縄と福島から見た日本	徳間書店	福島県、沖縄県
198	福島県		福島大学原発災害支援フォーラム、東京大学原発災害支援フォーラム	2013年2月	原発災害とアカデミズム—福島大・東大からの問いかけと行動	合同出版	福島県
199	福島県		西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂	2013年7月	共感の技法—福島県における足湯ボランティアの会話分析	勁草書房	福島県
200	福島県		山下祐介、市村高志、佐藤彰彦	2013年11月	人間なき復興—原発避難と国民の「不理解」をめぐって	明石書店	福島県

201	福島県		「ふくしま、わたしたちの3.11」証言記録集・制作委員会編(※高橋準が委員として参加)	2013年11月	ふくしま、わたしたちの3.11—30人のher Story	「ふくしま、わたしたちの3.11」証言記録集・制作委員会。	福島県
202	福島県		金菱清	2014年6月	震災メメントモリ—第二の津波に抗して	新曜社	岩手県、宮城県、福島県
203	福島県		開沼博	2015年3月	はじめての福島学	イースト・プレス	福島県
204	福島県		除本理史・渡辺淑彦(編)	2015年6月	原発災害はなぜ不均等な復興をもたらすのか—福島事故から「人間の	ミネルヴァ書房	福島県
205	福島県		日本地域福祉学会 東日本大震災復興支援・研究委員会	2015年7月	東日本大震災と地域福祉—次代への継承を探る	中央法規	岩手県陸前高田市、宮城県仙台市、福島県、茨城県北茨城市大津町、新潟県長岡市、札幌市、首都圏
206	福島県		関西学院大学災害復興制度研究所、東日本大震災支援全国ネットワーク、福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク(編)	2015年9月	原発避難白書	人文書院	福島県、全国
207	福島県		松本三和夫	2012/3/1	構造災としての原発災害	『サステナ』23, 58-67	
208	福島県		松本三和夫	2011年9月	専門家はいかに市民に伝えるべきか	『kotoba』秋号, 46-51	
209	福島県		加藤眞義	2011年10月	「被災・避難にかんする社会的カテゴリについて—「東日本大震災」後の	社会理論研究会研究例会 東洋大学	
210	福島県		松本三和夫・安俊弘	2011年9月	福島原発事故を招いた社会的要因をさぐる—独立な専門知よる適正な	『科学』81(9), 904-913	
211	福島県		船橋晴俊	2012年3月	Why the Fukushima Nuclear Disaster is a Man-made Calamity	IJJS, 21, 65-75	
212	福島県		高木竜輔・山下祐介	2013年1月	「福島第一原発事故からの避難とコミュニティの再生」	『建築雑誌』128(1640),19-20	
213	福島県		今田高俊	2013年3月	3.11後の社会とリスク対応	今田高俊編『社会生活からみたリスク(新装増補版)』リスク学入門4, 岩波書店, pp.149-162	
214	福島県		立岩真也・白石清春・野崎泰伸	2012年6月	特集Ⅱ 災厄に向かう—阪神淡路の時、そして福島から白石清春氏を	『障害学研究』8, 発行: 障害学会, 発売: 明石書店	
215	福島県		湯浅正恵	2013年3月	Whistle in the Graveyard: Safety Discourse and Hiroshima/Nagasaki A	Japan's 3/11 Disaster as Seen from Hiroshima: A Multidisciplinary Approach, Hiroshima Shritsu Daigaku. Kokusai Gakubu author, Soeisha, English, Japansese, 277p	
216	福島県		加藤眞義	2013年3月	不透明な未来への不確実な対応の持続と増幅—「東日本大震災」後の	田中重好・船橋晴俊・正村俊之編『東日本大震災と社会学—大災害を生み出した社会—』ミネルヴァ書房, 259-274	
217	福島県		西崎伸子	2013年1月	「原発事故後の福島県の乳幼児家族を支える取り組み」	『福島の進路』1月号(365), 69-71	
218	福島県		内田龍史	2012年6月	「八木正編『原発は差別で動く—反原発のもうひとつの視角[新装版]』	『寄せ場』25号、252-259	
219	福島県		西山昇・今田高俊	2012年9月	ゼロリスク幻想と安産神話のゆらぎ—東日本大震災と福島原子力発電	View & Vision, No.34, 千葉商+N185+N186	
220	福島県		山下祐介・山本薫子・吉田耕平・菅磨志保・松園祐子	2012年6月	原発避難をめぐる諸相と社会的分断—広域避難者調査に基づく分析	日本環境学会『人間と環境』38(2),10-21	
221	福島県	飯舘村	千葉悦子	2012年9月	「全村避難の中で子どもたちの学びの場を維持する飯舘村の挑戦」	『子ども白書2012』草土文化	

222	福島県		千葉悦子	2013年10月	「原発被災による地域解体の住民の学び直し」	日本社会教育学会60周年記念出版部 会編、『希望への社会教育』, 東洋館出 版, 24-47頁
223	福島県		船橋晴俊	2013年6月	高レベル放射性廃棄物問題の取り組み態勢について、考えるべきこと	学術の動向18(6), 40-45
224	福島県		日本学術会議社会学 委員会東日本大震災 の被害構造と日本社 会の再建の道を探る 分科会2013	2013年6月	「原発災害からの回復と復興のために必要な課題と取り組み態勢につ	2013年6月27日
225	福島県		西崎伸子	2013年9月	「原発災害の『見えない被害』と支援活動」	清水修二他編著『東北発・災害復興学 入門—巨大災害と向き合う、あなたへ』, 山形大学出版会, 144-166頁
226	福島県		船橋晴俊	2013年10月	「原子力政策は何を判断基準とすべきか—政策転換に必要なパラダイ	『世界』no.848 (2013年10月号),117-125
227	福島県		Hashimoto, Setsuko	2013年10月	Fukushima Nuclear Accident and Its Aftermath: A survey of Futaba Dis	『理論と方法』vol.28, No.2, 223-245頁
228	福島県		船橋晴俊	2013年12月	「震災問題対処のために必要な政策議題設定と日本社会における制御	『社会学評論』64(3):1-23
229	福島県		船橋晴俊	2014年1月	高レベル放射性廃棄物問題への対処：学術会議の「回答」をふま	日本の科学者 49-1, 19-24
230	福島県		船橋晴俊	2014年1月	「生活環境の破壊」としての原発震災と地域再生のための「第三の道」	環境と公害 43-3, 62-67
231	福島県		湯浅陽一・大門信也	2014年3月	「再生可能エネルギー事業の社会的普及と信用カスキーム」	『サステナビリティ研究』4, 41-52.
232	福島県		高橋征仁	2014年3月	「社会学におけるコンコルドの誤謬—フクシマ問題に寄せて」	『西日本社会学年報』12, 103-112
233	福島県		船橋晴俊	2014年3月	原発震災の被害構造と生活再建・地域再生のための「第三の道	東日本大震災の被災地再生をめぐ る諸問題(法政大学サステナビリ ティ研究所), 1-19
234	福島県		船橋晴俊	2014年3月	原子力政策における取組体制の問題点と改革の方向	『災後の社会学』2, 58-77.
235	福島県		遠藤恵	2014年3月	福島市の30人の女性たちの声を記録して—『ふくしま、わたしたちの3.11	『災後の社会学』2, 12-22.
236	福島県		山下祐介・吉野英岐	2013年12月	「特集『東日本大震災・福島第一原発事故を読み解く』によせて」	『社会学評論』64(3), 330-341
237	福島県		今井照	2013年4月	「『仮の町』が開く可能性—住所はふたつあってもよい」	『世界』第842号(2013年4月号)84-92、 岩波書店
238	福島県		山本薫子・佐藤彰彦・ 松蘭祐子・高木竜輔・ 吉田耕平・菅磨志保	2014年3月	原発避難者の生活再編過程と問題構造の解明に向けて—「空間なきコ	『災後の社会学』2, 23-41.
239	福島県	飯舘村	千葉悦子	2013年8月	「原子力災害からの復興に向けた取り組みと課題——全村避難の飯舘	『計画行政』36(3), 9-14頁
240	福島県		Kohta Juraku	2013年5月	“The Failure of Japan’s ‘Successful’ Nuclear Program: Structural Pro	in Hindmarsh, R. (ed.) Nuclear Disaster at Fukushima Daiichi: Social, Political and Environmental Issues, Routledge, pp. 41-56
241	福島県		立石裕二	2013年7月	「放射線被曝問題における批判的科学的」	『年報 科学・技術・社会』22, 31-46
242	福島県		高橋征仁編	2015年3月	原発事故をめぐる母親たちのリスク意識と行動—遠隔地自主避難	2014年度山口大学人文学部社会心 理学調査実習報告書,山口大学人 文学部
243	福島県		原口弥生	2014年4月	福島第一原発事故後のリスク回避行動と日常生活の変化	東日本大震災・原発事故以後の生活と 環境意識についての調査報告書 168 (13-39)
244	福島県		岩井紀子	2014年4月	原発避難に関する住民意向調査—社会調査の視点から見た課題	学術の動向19(4), 94-101
245	福島県					
246	福島県		立石裕二	2014年4月	低線量被曝をめぐる対立と負の自己言及の必要性	科学84(5),494-497

247	福島県		高木竜輔	2014年5月	福島第一原発事故・原発避難における地域社会学の課題	地域社会学年報 26, 29-44	
248	福島県		西崎伸子	2014年5月	原子力災害から3年目をむかえて—災害直後の社会状況と抗い	平和研究 42, 61-79	
249	福島県		Miwao Matsumoto	2014年6月	"Structural Disaster" behind the Fukushima Accident: The Sociology of	SOCIOLOGY IN THE POST - DISASTER SOCIETY (Grant-in-Aid for Scientific Research (A) Reconstruction from the disaster project),134-142	
250	福島県	飯舘村	千葉悦子	2014年9月	原発避難の中でふるさとを捨てない力を育む—農山村の生活文化	文化経済学 11-2, 4-9	
251	福島県	福島市	高橋 準	2014年11月	危機の乗り越え方—東日本大震災後の福島市飲食店調査から	行政社会論集 27(2) 1-30	
252	福島県		渡戸一郎	2015年2月	東日本大震災と都市/地域社会学の課題—原発被災地/避難者	明星大学社会学研究紀要 34, 51-75	
253	福島県		加藤眞義	2014年7月	住むことの意味をあらためて考える—「東日本大震災」後の福島	都市住宅学86,45-48	
254	福島県		山下祐介	2015年4月	東日本大震災・東電福島第一原発事故—隘路に入った復興から	世界2015年4月pp.84-93	
255	福島県		加藤眞義・高橋準編	2013年3月		『東日本大震災および原発事故によって生じた避難生活の実態と課題』, 福島県男女共生センター 平成24年度 地域課	
256	福島県		高木竜輔・除本理史	2018年6月	「原発事故による商工業被害の継続性、広範性」	『原発事故被害回復の法と政策』108-119	商工事業者、双葉郡
257	福島県		高木竜輔	2017年11月	「避難指示区域から原発被災者における生活課題とその課題」	『原発震災と避難(シリーズ被災地から未来を考える1)』92-130	双葉郡、生活再建
258	福島県		高木竜輔	2015年5月	「福島第一原発事故に関わるアンケート調査からみる被害の実態」	『福島原発事故賠償の研究』286-296	
259	福島県		高木竜輔	2018年8月	「福島県内の原発避難者向け復興公営住宅におけるコミュニティ形成と	『社会学年報』46, 11-24	原発避難、復興公営住宅
260	福島県		高木竜輔	2018年5月	「原発被災自治体職員の実態調査」	『自治総研』475, 48-91	職員調査
261	福島県		高木竜輔・除本理史	2018年4月	「原発事故による福島県内商工業者の被害と賠償の課題——福島県商	『環境と公害』47(4), 64-70	商工事業者、双葉郡
262	福島県		高木竜輔	2018年3月	「双葉郡のいま——原発事故から七年目の被災地の「姿」	『月刊自治研』702, 56-61	
263	福島県		高木竜輔・除本理史	2017年8月	「原発事故被害の継続性—福島県内商工業者への質問紙調査から」	『科学』87(9), 801-803	
264	福島県		高木竜輔	2016年3月	「福島県内の原発避難者に対する社会調査の実践とその課題」	『社会と調査』16, 38-45	
265	茨城県		原口弥生	2012年3月	福島原発避難者の支援活動と課題—福島乳幼児妊産婦ニーズ対応ブ	茨城大学地域総合研究所年報45, 39-48.	
266	茨城県		原口弥生	2013年4月	広域避難者の生活実態と支援ニーズ — 茨城県避難者アンケート調査	SYNODOS復興アリーナ http://synodos.jp/fukkou/3621 (2013年4月21日公表)	
267	茨城県		原口弥生	2013年9月	「低認知被災地における市民活動の現在と課題～茨城県の放射能汚染	『平和研究』40, 9-30	
268	茨城県		原口弥生	2014年4月	3.11 東日本大震災後の食生活と甲状腺検査についての調査結	2013年 北関東地域の被災者アンケート調査 福島県からの避難者アンケート調査 資料集 69(2-11)	
269	茨城県		原口弥生	2013年3月	「東日本大震災にともなう茨城県への広域避難者アンケート調査結果」	『茨城大学地域総合研究所年報』第46号, 61-80.	
270	新潟県		松井克浩	2013年7月	「新潟県における広域避難者の現状と支援」	『社会学年報』42:61-71.	
271	山形県		山根純佳	2013年3月	原発事故による「母子避難」問題とその支援—山形県における避難者	『山形大学人文学部研究年報』10, 37-51.	
272	千葉県	柏市	五十嵐泰正、「安全・安心の柏産柏消」円卓会議	2012年12月	みんなで決めた「安心」のかたち—ポスト3.11の地産地消をさがした柏	垂紀書房	千葉県柏市

273	千葉県	柏市	五十嵐泰正(インタビュー)	2012年2月	ホットスポットとよばれた地域がつくる「安心」とは —「安全・安心の柏産	α SYNODOS vol.94, vol.96	
274	千葉県	流山市	大内田鶴子	2013年3月	防災まち歩き社会実験によるまちづくりの研究: 流山新市街地地区にお	『江戸川大学紀要』第23号	
275	千葉県	柏市	柳瀬徹(シノダス編集部)	2012年3月	柏市で再生される「信頼」のかたち —「農地を測る / 農地を見せる」で	SYNODOS ジャーナル	
276	埼玉県		原田 峻	2012年3月	首都圏への遠方集団避難とその後——さいたまスーパーアリーナにお	山下祐介・開沼博編『「原発避難」論』明石書店, 231-266	
277	埼玉県		西城戸 誠・原田 峻	2012年9月	原発・県外避難者の困難と「支援」のゆくえ——埼玉県における避難者	船橋晴俊・長谷部俊治編『持続可能性の危機』御茶の水書房, 197-226頁	
278	埼玉県		西城戸誠・原田峻	2013年6月	「東日本大震災による県外避難者に対する自治体対応と支援—埼玉県	『人間環境論集』14(1): 1-26	
279	埼玉県		原田峻・西城戸誠	2013年5月	「原発・県外避難者のネットワークの形成条件——埼玉県下の8市町を	『地域社会学会年報』第25集、143-156頁	
280	埼玉県		西城戸誠・原田峻	2014年12月	埼玉県における県外避難者とその支援の現状と課題	人間環境論集 15(1), 69-103	
281	沖縄県		徳間書店出版局編、内田樹, 小熊英二, 開沼博、佐藤栄佐久、佐野真一、清水修二、広井良典、辺見庸	2012年11月	この国はどこで間違えたのか —沖縄と福島から見た日本	徳間書店	
282	沖縄県		高橋征仁	2013年3月	沖縄県における原発事故避難者と支援ネットワークの研究1～弱い絆の	山口大学文学会志63, 79-97	
283	沖縄県		高橋征仁	2013年5月	「弱い絆の強さ—沖縄県における原発事故避難者レポート」	『建築雑誌』Vol128, No1646, 6-7頁	
284	沖縄県		高橋征仁	2013年6月	「東日本大震災 仮すまいの姿～沖縄県における原発事故避難者レポ	『建築雑誌』, 40, 2-3頁	
285	沖縄県		南裕一郎	2014年3月	「沖縄県における東日本大震災避難者への支援と自主避難者の生活」	『Zero Carbon Society研究センター紀要』2/3, 19-24	
286	沖縄県		高橋征仁	2015年3月	沖縄県における原発事故避難者と支援ネットワークの研究2—定	山口大学文学会志 65	
287	岡山		後藤範章	2013年7月	いま、何故『岡山』なのか？	やっぱりえかろう おかやま(知って欲しい3.11避難・移住者の岡山暮らし) 25p(5)	
288	岡山		後藤範章	2014年3月	いま、何故『岡山』なのか？	ちよつとこられえ おかやま(はじめての岡山暮らし応援ガイド) 2, 55p(33)	
289	岡山		後藤範章・宝田惇史	2015年3月	原発事故契機の広域避難・移住・支援活動の展開と地域社会の	災後の社会学3, 41-61	
290	東北		遠藤薫(編著)	2011年12月	大震災後の社会学	講談社現代新書	
291	東北		駒井洋(監修)鈴木江里子(編著)	2012年2月	移民・ディアスポラ研究 2 東日本大震災と外国人移住者たち	明石書店	
292	東北		遠藤薫	2012年3月	メディアは大震災・原発事故をどう語ったか—報道、ネット、ドキュメンタ	東京電機大学出版局	
293	東北		早稲田大学教育総合研究所 監修・柴山知也・細川光洋・本田恵子・三上貴仁・鴨川光・中島好美・加藤尚志・堀誠	2012年3月	震災と教育—学び、将来へ伝える(早稲田教育ブックレット No. 7)	学文社	
294	東北		福田 充	2012年4月	大震災とメディア—東日本大震災の教訓	北樹出版	
295	東北		長坂 俊成	2012年4月	記憶と記録 311 まるごとアーカイブス(叢書 震災と社会)	岩波書店	

296	東北	赤坂憲雄・小熊英二 編著	2012年5月	「辺境」からはじまる—東京／東北論	明石書店	
297	東北	高野 明彦、吉見 俊 哉、三浦伸也	2012年8月	311情報学—メディアは何をどう伝えたか(叢書 震災と社会)	岩波書店	
298	東北	村田 晶子 編著	2012年9月	復興に女性たちの声を「3.11」とジェンダー	早稲田大学出版会	
299	東北	山下祐介	2013年1月	東北発の震災論—周辺から広域システムを考える	筑摩書房	
300	東北	田中重好・船橋晴俊・ 正村俊之編	2013年3月	東日本大震災と社会学—大災害を生みだした社会	ミネルヴァ書房	
301	東北	総合人間学会(編集) 会長:堀尾輝久 (日本教育学会会長 84-86/92-97)家永裁 判の理論的基礎 2006年設立時会長: 小林直樹(憲法学)	2013年6月	3・11を総合人間学から考える(総合人間学7)	学文社	
302	東北	渥美公秀	2014年3月	災害ボランティア—新しい社会へのグループ・ダイナミクス	弘文堂	
303	東北	地域社会学会(編)	2014年5月	東日本大震災:復興の課題と地域社会学(地域社会学会年報第26集)	ハーベスト社	
304	東北	荻野昌弘・蘭信三 (編)	2014年5月	3.11以前の社会学—阪神・淡路大震災から東日本大震災へ	生活書院	阪神、東北
305	東北	塩崎 賢明(著)	2014年12月	復興(災害)—阪神・淡路大震災と東日本大震災	岩波書店	
306	東北	鎌田 薫 監修 早稲 田大学震災復興研究 論集編集委員会 編	2015年3月	震災後に考える 東日本大震災と向きあう92の分析と提言	早稲田大学出版部	
307	東北		2015年4月	世界・特集「これが復興なのか」	岩波新書	
308	東北	地域社会学会(編)	2015年5月	東日本大震災:復興のビジョンと現実(地域社会学会年報第27集)	ハーベスト社	
309	東北	恒川 恵市(編)	2015年6月	大震災・原発危機下の国際関係(大震災に学ぶ社会科学 第7巻)	東洋経済新報社	
310	東北	池田 謙一(編)	2015年7月	震災から見える情報メディアとネットワーク(大震災に学ぶ社会科学 第	東洋経済新報社	
311	東北	小熊英二・赤坂憲雄 (編)	2015年7月	ゴーストタウンから死者は出ない—東北復興の経路依存	人文書院	岩手県、宮城県、福島県
312	東北	似田貝香門・ 村井雅清	2015年7月	震災被災者と足湯ボランティア—つばやきから自立へと向かうケアの試	生活書院	
313	東北	似田貝香門・吉原直 樹(編)	2015年8月	連帯経済とコミュニティ再生(震災と市民1)	東京大学出版会	
314	東北	似田貝香門・吉原直 樹(編)	2015年8月	支援とケア(震災と市民2)	東京大学出版会	
315	東北	神戸大学震災復興支 援プラットフォーム (編)	2015年10月	震災復興学—阪神・淡路20年の歩みと東日本大震災の教訓	ミネルヴァ書房	兵庫・大阪 東日本
316	東北	小原隆治・稲継裕昭 (編)	2015年11月	震災後の自治体ガバナンス(大震災に学ぶ社会科学 第2巻)	東洋経済新報社	
317	東北	青木栄一(編)	2015年12月	復旧・復興へ向かう地域と学校(大震災に学ぶ社会科学 第6巻)	東洋経済新報社	
318	東北	長谷部俊治・船橋晴 俊編	2012年9月	持続可能性の危機—地震・津波・原発災害に向き合って	御茶の水書房	三陸、福島県

319	東北		浅川達人	2012年4月	東日本大震災における被災者の生活再建と大学の役割—震災が浮き彫	『社会福祉研究』, 第113号, pp.2-8
320	東北		中澤秀雄	2012年9月	三陸沿岸からみる災害地域再生の法的問題	Chuo Online
321	東北		岩間 信之・佐々木 緑・田中 耕市・駒木 伸比古・浅川 達人	2013年1月	「東日本大震災被災地における食料品小売業の復興プロセスと仮設住	E-journal GEO 7(2), 178-196
322	東北		湯浅正恵	2012年6月	「3.11後、痛みを生きる」	ボランティア学会2011年度学会誌
323	東北		金菱清	2012年7月	社会的公正性を支える不公平の承認—不法占拠と3.11大震災にお	『社会学年報』41, 23-33
324	東北		中澤秀雄	2012年9月	ポスト3.11(災間期)の社会運動と地域社会の再生	大原社会問題研究所雑誌647号
325	東北		松本三和夫	2012年10月	構造災—科学社会学会の視点から	『UP』41(10), 16-21
326	東北		高橋準	2012年11月	救われるべきものは“いのち”なのか—『災害とジェンダー／セクシュア	クィア学会 『論叢クィア』vol.5 特集 「3.11以後のクィア」21-33
327	東北		植田今日子	2014年2月	「どこまでが集落か—津波常習地の漁村集落にみる海の領域意識」	神奈川大学日本常民文化研究所編『歴史と民俗』vol.30, 平凡社
328	東北		溝口佑爾	2013年5月	「情報ボランティアから思い出の救済へ—「予想外」に対応する支援の	『災害後の社会学』1, 19-34
329	東北		溝口佑爾	2014年3月	情報化社会における災害ボランティアの—様態—被災写真救済活動を	『災害後の社会学』2, 42-57.
330	東北		麦倉哲	2013年10月	東日本大震災の被災から復興における「脆弱性」と「社会階層」—暮らし	『理論と方法』(数理社会学会)28(2), 269-288
331	東北		加藤眞義編	2014年3月	『災害後の社会学No.1 震災プロジェクト2012年度報告書』	科学研究費補助金(基盤研究A)「東日本大震災と日本社会の再建—地震、津波、原発震災の災害とその克服の道」報告書(2013年5月31日刊行)
332	東北					
333	東北		加藤眞義編	2014年3月	『災害後の社会学No.2 震災プロジェクト2013年度報告書』	科学研究費補助金(基盤研究A)「東日本大震災と日本社会の再建—地震、津波、原発震災の災害とその克服の道」報告書(2014年3月25日刊行)
334	東北		浅川達人	2013年5月	「三陸沿岸の社会地図—東日本大震災の大津波による被災者とは—」	『災害後の社会学』1, 3-18
335	東北		金菱清	2013年5月	「災害死を再定位するコミュニティの過剰な意義—ifの未死と彷徨える	『フォーラム現代社会学』12: 104-113.
336	東北		奥野卓司	2013年11月	「動物愛護観のダブルバインド…震災・原発事故における動物救援活動	樋口進・関西学院大学キリスト教と文化研究センター編『自然の問題と聖典』97-131, キリスト新聞社刊
337	東北		中澤秀雄	2013年7月	「『復旧』に回収される『復興』」	『Chuo Online』「オピニオン」コーナー http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/20130708
338	東北		金菱清	2013年8月	『震災からの歩み(第25回)東北を日本の先進地に被災地の声を聞き、	第三文明(645), 29-33頁
339	東北		谷下雅義・辻野五郎 丸・菅野広紀	2013年9月	「豊かな海辺環境を創出するための議論の場をつくる」	都市計画家協会WebPlanners http://webplanners.net/2013/09/12/600/
340	東北		金菱清	2013年10月	「内なるショック・ドクトリン—第二の津波に抗する生活戦略」	『学術の動向』(特集 震災復興の論理: 新自由主義と日本社会) 18(10), 50-53頁
341	東北		金菱清	2013年10月	「内なるショック・ドクトリン—第二の津波に抗する生活戦略」	『理論と動態』第6号 20-36頁
342	東北		仁平典宏	2013年12月	「復興の槌音(16) 変わりゆく被災地でいかなる「支援」が必要か —」	『Monthly信用金庫』2013年12月号: 44-47.

343	東北		吉野英岐	2013年12月	「東日本大震災と新たな地域づくり—津波被災地での取り組み—」	『にじ』(一般社団法人JC総研), 644, 14-20	
344	東北		金菱清	2012年6月	漁村における弱者生活権の保障	『Business Labor Trend』2012年6月号, 31	
345	東北		船橋晴俊	2014年3月	震災復興問題における取り組み態勢の問題点—理論概念の構築	東日本大震災の被災地再生をめぐる諸問題(法政大学サステナビリティ研究所)21-35	
346	東北		小松丈晃	2013年4月	「社会的排除のリスクに抗する機能システムはありうるのか」	小松丈晃、高橋徹・小松丈晃・春日淳—『滲透するルーマン理論—機能分化論からの展望—』文真堂, 129-154	
347	東北		小松丈晃	2013年4月	「ルーマン政治論におけるシステムの分出の条件と諸論点」	小松丈晃、高橋徹・小松丈晃・春日淳—『滲透するルーマン理論—機能分化論からの展望—』文真堂, 3-36	
348	東北		今井信雄	2013年5月	「震災を忘れていないのは誰か——被災遺物の保存の社会学」	関西社会学会(編)『フォーラム現代社会学』12, 98-103	
349	東北		三上剛史	2013年5月	「リスク社会と“ディアボリックなもの”」	関西社会学会(編)『フォーラム現代社会学』12, 121-128.	
350	東北		今井信雄	2013年6月	「写真の経験と社会的な記憶」	社会学研究会(編)『ソシオロジ』177, 107-113	
351	東北		金明秀	2014年5月	東日本大震災と外国人	荻野昌弘、蘭信三編『3.11以前の社会学—阪神淡路大震災から東日本大震災へ』生活書院、第6章	
352	東北		川副早央里・野坂真・浦野正樹	2015年9月	「『東日本大震災被災地域における減災サイクルの構築と脆弱性／復興」	震災問題情報連絡会『東日本大震災研究交流会研究報告書』、pp.51-56	いわき市、大槌町、気仙沼市
353	その他		村井雅清	2011年6月	災害ボランティアの心構え	ソフトバンククリエイティブ	
354	その他		平凡社(編)	2011年9月	災害ボランティア・ブック—週末は東北へ	平凡社	
355	その他		大澤真幸	2012年3月	夢よりも深い覚醒—3・11後の哲学	岩波書店	
356	その他		越沢 明	2012年3月	大災害と復旧・復興計画(叢書 震災と社会)	岩波書店	
357	その他		小熊英二	2012年8月	社会を変えるには	講談社	
358	その他		松本三和夫	2012年9月	構造災—科学技術社会に潜む危機	岩波書店	
359	その他		伊豫谷登士翁・齋藤純一・吉原直樹	2013年6月	コミュニティを再考する	平凡社新書	
360	その他		福祉社会学研究編集委員会(編)	2013年6月	福祉社会学研究 10 特集:ポスト3.11における社会理論と実践	東信堂	
361	その他		小熊英二編著	2013年9月	原発を止める人々—3.11から官邸前まで	文芸春秋	
362	その他		関西大学社会安全学部(編集)	2014年3月	防災・減災のための社会安全学: 安全・安心な社会の構築への提言	ミネルヴァ書房	
363	その他		関西学院大学災害復興制度研究所・被災者生活再建支援法効果検証研究会	2014年3月	検証 被災者生活再建支援法	自然災害被災者支援促進連絡会(連合、日本生協連、兵庫県、全労済協会)	
364	その他		白川真澄	2014年10月	脱成長を豊かに生きる—ポスト3・11の社会運動	社会評論社	
365	その他		丸山康司	2014年12月	再生可能エネルギーの社会化—社会的受容性から問いなおす	有斐閣	

366	その他	Joonhong Ahn, Cathryn Carson, Mikael Jensen, Kohta Juraku, Shinya Nagasaki, Satoru Tanaka, edited	2014年12月	Reflections on the Fukushima Daiichi Nuclear Accident: Toward Social-	Springer	
367	その他	名嶋義直・神田靖子(編)	2015年3月	3.11原発事故後の公共メディアの言説を考える ?	ひつじ書房	
368	その他	吉田 毅	2012年3月	東日本大震災で被災したスポーツ集団の復興プロセス—被災の様相と	スポーツ社会学研究、20(1)、5-19	
369	その他	関西学院大学 Zero Carbon Society研究センター	2012年3月	特集「東日本大震災後における移動の価値観の変容」	『Zero Carbon Society研究センター紀要』1、27-48	
370	その他	渡戸一郎	2012年3月	「震災を経て、いま感じていること」	『ネットワーク』(東京ボランティア市民活動センター) 317 2-3	
371	その他	吉野英岐	2012年5月	「東日本大震災を体験して—被災県で教育研究に携わる者として—」	『地域社会学年報』24、143-150	
372	その他	金菱清	2012年5月	“過剰な”コミュニティの意味—阪神・淡路大震災を教訓とした東日本大	第63回関西社会学会(2012年5月27日) 於・皇學館大学 シンポジウム『3.11以	
373	その他	東日本大震災女性支援ネットワーク・調査チーム(「支援者調査」担当 池田直子)	2012年6月	調査チーム報告	東日本大震災女性支援ネットワーク報告会「災害・復興とジェンダー—被災地の声を政策に—」	
374	その他	Goodwin R, Takahashi M, Sun S, Gaines SO Jr	2012年5月	Modelling Psychological Responses to the Great East Japan Earthqua	PLoS ONE 7(5): e37690. doi:10.1371/journal.pone.0037690	
375	その他	Goodwin R, Takahashi M, Sun S, Gaines SO Jr	2012年7月	Modelling Psychological Responses to the Great East Japan Earthqua	33rd Stress and Anxiety Research Society International Conference Palma de Mallorca, 2 - 4 th July 2012, Spain	
376	その他	西崎伸子・照沼かほる	2012年7月	『放射性物質・被ばくりスク問題』における『保養』の役割と課題 ~ 保養	『行政社会論集』25(1)	
377	その他	久保田稔	2012年8月	「震災と医療・大学——学会参加と被災地訪問の記録より」	関西学院大学災害復興制度研究所 ニュースレター『FUKKOU』18、.7	
378	その他	小松田儀貞	2013年2月	「バイオテクノロジーと生政治(バイオポリティクス)の未来—生命科学ノ	北川隆吉・中山伸樹編『科学・技術革新・人間(21世紀への挑戦4)』, 日本経済評論社, 53-87頁	
379	その他	古城利明・Michele Colafato	2012年4月	Il Triplo Disastro (The Triple Disaster)	Una Città n.193 (Aprile 2012), 28-31	
380	その他	千葉悦子	2012年5月	震災から立ち上がる 東日本農業の復旧・復興に向けて 原発事故に立	『農業と経済』5月号, 98-99	
381	その他	日本社会学会	2013年12月	社会学評論Vol.64, No.3特集・東日本大震災・福島第一原発事故を読み解く—3年目のフィールドから		
382	その他	松本三和夫	2012年7月	テクノサイエンス・リスクと知的公共財	盛山和夫ほか編『公共社会学』東京大学出版会、第1巻、193-211	
383	その他	船橋晴俊	2012年7月	エネルギー戦略シフトと地域自然エネルギー基本条例	『月刊自治研』 2012年7月号、54(634), 29-37.	

384	その他		中川尚子・蓮井誠一郎・原口弥生	2012年8月	米・小麦・牛乳の放射能汚染と学校給食——すべての子どもを守るため	『科学』82(8月号), 47-853.	
385	その他		日本学術会議課題別委員会高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会	2012年9月	「回答」		
386	その他		黒田由彦	2012年11月	「ポスト3.11の地域社会」を問うことの意味	『地域社会学会』No.175, 2-5	
387	その他		黒田由彦	2012年12月	『愛知県に広域避難された方の支援のあり方を考えるためのアンケート』	http://aichi-shien.net/modules/d3downloads/index.php?cid=6	
388	その他		黒田由彦・浅井南	2013年12月	『広域避難をされた方々の現状を正しく理解し今後のより有益な支援等』	http://aichi-shien.net/modules/d3downloads/index.php?cid=6	
389	その他		黒田由彦	2014年8月	災害復興のビジョンと現実	『地域社会学会』No.186,2-4	
390	その他		黒田由彦	2014年7月	解題 東日本大震災:復興の課題と地域社会学	『地域社会学会年報』第26集, 5-9	
391	その他		黒田由彦	2015年5月	「ポスト3.11の地域社会」の成果と課題	『地域社会学会年報』第27集, 5-12	
392	その他		黒田由彦	2015年2月	東日本大震災 自治体間支援調査報告書	科学研究費・基盤研究(B)(研究代表者:黒田由彦)報告書	
393	その他		黒田由彦	2015年2月	「脆弱性とプリペアードネス」研究会活動報告書	科学研究費・基盤研究(B)(研究代表者:黒田由彦)報告書	
394	その他		黒田由彦	2016年9月	The Great East Japan Earthquake and Change of Disaster Management	International Comparative Study on Mega-earthquake Disasters: Collection of Papers Vol.1:28-37	
395	その他		原口弥生・中川尚子・蓮井誠一郎	2012年12月	放射線問題に向き合う教育現場(前)[教育と法(第45回)]	月刊 高校教育(2012年12月号)45-13, 78-81.	
396	その他		湯浅正恵	2012年12月	「揺らぐ広島・長崎データ:IPPNW世界大会に参加して」	広島ジャーナリスト78-85	
397	その他		今田高俊・船橋晴俊	2012年12月	高レベル放射性廃棄物をめぐる新たな議論の枠組み—日本学術会議	『科学』82(12), 1295-1300	
398	その他		蓮井誠一郎・原口弥生・中川尚子	2013年1月	「放射線問題に向き合う教育現場(後)」	『月刊 高校教育』(2013年1月号)46/ 1, pp. 78-81.	
399	その他		西崎伸子	2013年2月	「避難区域外の児童生徒等の放射線防護についての一考察——学校」	『シノドスジャーナル』2013年2月14日配信	
400	その他		船橋晴俊	2013年2月	「高レベル放射性廃棄物問題にいかに対処するか—学術会議「回答」と」	『社会運動』395号: 26-43	
401	その他		船橋晴俊	2013年2月	「高レベル放射性廃棄物という難問への応答—科学の自律性と公平性」	『世界』no.839:33-41	
402	その他		佐々木尚之・濱田国佑	2013年3月	節電行動と再生可能エネルギーの利用状況	日本政策金融公庫『調査月報』3月号	
403	その他		岩井紀子・穴戸邦章	2014年3月	東日本大震災と福島第一原子力発電所事故に関する社会学の組織的	『災後の社会学』2, 78-82.	
404	その他		山口博史	2012年5月	大規模災害への国内大学留学生関連スタッフの対応 —東日本大震災	名古屋大学学術機関リポジトリ	
405	その他		仁平典宏	2013年3月	「「災間」における支援の条件——〈3・11〉と〈3・12〉のねじれの中で」	早稲田社会学会編『社会学年誌』54号、pp.3-20.	
406	その他		遠藤薫	2012年6月	「震災1年」をどう伝えたか—報道側の干渉や主張ではなく寄り添った	『GALAC』2012年6月号, 26-27	
407	その他		遠藤薫・他	2012年7月	日本マス・コミュニケーション学会60周年記念シンポジウム「震災・原発	『マス・コミュニケーション研究』81(2012) 2-64	

408	その他		遠藤薫	2013年1月	間メディア社会における<ジャーナリズム>とは?—大震災・原発事故	『学術の動向』2013年1月号p.23-33	
409	その他		岩井紀子・柴田由己	2013年1月	東日本大震災が仕事に与えた影響	日本政策金融公庫『調査月報』1月号	
410	その他		渡戸一郎	2013年3月	「東日本大震災と災害・復興ボランティア活動——今後の課題を考える	『2012年年度公開講座の記録』成蹊大学,11-16.	
411	その他		金菱清	2013年3月	千年災禍の所有とコントロール	田中重好・船橋晴俊・正村俊之編『東日本大震災と社会学—大災害を生み出した社会—』ミネルヴァ書房, 103-130	
412	その他		関嘉寛	2013年3月	東日本大震災における市民の力と復興—阪神・淡路大震災／新潟県中	田中重好・船橋晴俊・正村俊之編『東日本大震災と社会学』ミネルヴァ書房, 71-103	
413	その他		大内田鶴子	2012年5月	住民の立場からの防災体制改善に関する考察—日米比較の視点から	日本都市学会年報45, 206-212	
414	その他		松井克浩	2012年11月	「防災コミュニティと町内会—中越地震・中越沖地震の経験から」	吉原直樹編『防災の社会学——防災コミュニティの社会設計に向けて〔第二版〕』東信堂, 71-97	
415	その他		谷下雅義	2012年11月	「現場で求められる知の総合化」	都市計画家協会, 防潮堤連続インタビュー(1)	
416	その他		正村俊之	2012年4月	「第7章 金融恐慌にみるコミュニケーションの成立機制——神・貨幣・情	正村俊之編著『身体・メディア・情報空間——コミュニケーション論の新たな展開をめざして』勁草書房, 283-263	
417	その他		正村俊之	2012年4月	「1章 コミュニケーション論の系譜と課題」	正村俊之編著『身体・メディア・情報空間——コミュニケーション論の新たな展開をめざして』勁草書房, 1-28	
418	その他		正村俊之	2012年5月	「ポスト産業資本主義の論理:新自由主義はなにをもたらしたのか」	『フォーラム現代社会学』第11号,70-80	
419	その他		似田貝香門	2012年5月	「〈災害時経済〉とモラル・エコノミー試論」	福祉社会学研究9(特集 東日本大震災と福祉社会の課題:〈交響〉と〈公共〉の臨界), 11-25.	
420	その他		本多創史	2012年5月	再帰する優生思想	小熊英二・赤坂憲雄編『辺境からはじまる東京／東北論』明石書店, 89-121.	
421	その他		仁平典宏	2012年5月	「二つの震災と市民セクターの再編——3.11被災者支援に刻まれた「統	福祉社会学会編『福祉社会学研究』9 pp.98-118	
422	その他		金菱清	2012年6月	例外化状態に抗する社会科学の構築にむけて	『社会学史研究』34, 37-51	
423	その他		仁平典宏	2012年6月	「市民社会・ネオリベリズム・3.11——楢円の再構築に向けて」	東海社会学会編『東海社会学会年報』4 pp.34-43	
424	その他		仁平典宏	2012年9月	「3・11ボランティアの「停滞」問題を再考する——1995年のパラダイムを	長谷部俊治・船橋晴俊編『持続可能性の危機——地震・津波・原発事故災害に向き合って』御茶の水書房 6章 159-188	
425	その他		遠藤薫	2012年10月	東日本大震災をどう捉えるか-レジリエントな社会システムを目指して	『横幹』第6巻第2号p.71-78	
426	その他		原口弥生	2012年10月	災害回復力(レジリエンス)の再検討——自然・社会・技術	『歴史学研究 増刊号』(歴史学研究会),898号, pp.194-202.	
427	その他		正村俊之	2013年1月	「問われる『科学とメディア』への信頼」	『学術の動向』1号,pp.42-45	
428	その他		立石裕二	2013年1月	「キーワード 現場知」	中村征樹編『ポスト3・11の科学と政治』ナカニシヤ出版, 225-227頁	
429	その他		遠藤薫	2013年3月	東日本大震災と分断される社会・政治意識——2012年6月実施の社会調	『学習院大学 法学会雑誌』48巻2号	

430	その他		正村俊之	2013年3月	リスク社会論の視点からみた東日本大震災——日本社会の3つの位相	田中重好・船橋晴俊・正村俊之編著『東日本大震災と社会学』ミネルヴァ書房, 227-257
431	その他		松本三和夫	2013年3月	「構造災をこえて」	建築雑誌126(164)2, 47-48
432	その他		正村俊之	2013年3月	「パネル討論 震災を乗り越える社会情報学」	『社会情報』22-2号, pp.56-57, 60-61
433	その他		正村俊之	2013年3月	「震災とリスク・コミュニケーション——日本社会におけるリスクの社会的	『社会情報』22-2号, pp.36-45
434	その他		小松田儀貞	2013年3月	「生物学的シティズンシップ」論の意義と課題	『秋田県立大学総合科学研究彙報』(秋田県立大学総合科学教育研究センター), 14, 15-23
435	その他		宍戸邦章・武内智彦	2013年2月	東日本大震災の寄付行動とボランティア活動	日本政策金融公庫『調査月報』2月号
436	その他		正村俊之	2013年3月	おわりに	田中重好・船橋晴俊・正村俊之編著『東日本大震災と社会学』ミネルヴァ書房
437	その他		速水聖子	2013年5月	「住縁・女縁とNPO——地域社会関係の変容と再生」	『縁の社会学』橋本和孝編著, ハーベスト社
438	その他		金菱 清・植田今日子	2013年12月	「災害リスクの“包括的制御”-災害パターンリズムに抗するために」	『社会学評論』64(3)386-401頁
439	その他		速水聖子	2014年2月	コミュニティの制度化をめぐる課題と展望-「参加」概念と担い手の	山口大学文学会誌64, 27-44
440	その他		岩井紀子・宍戸邦章	2013年5月	社会学研究者による「震災関連研究・支援活動」のメタデータ収集の経	『災後の社会学』1, 47-68
441	その他		小松丈晃	2013年7月	「科学技術のリスクとく制度的リスク」	東北社会学会『社会学年報』42 特集論文「社会問題としての東日本大震災」, 5-15
442	その他		小松丈晃	2013年7月	「科学技術の「リスク」と組織-3.11以後のリスク規制に関するシステム	科学社会学会『年報 科学・技術・社会』22, 89-107頁
443	その他		岩井紀子・宍戸邦章	2013年12月	「東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故が災害リスクの認知お	『社会学評論』64(3), 420-438
444	その他		田宮遊子, 土屋葉, 井口高志, 岩永理恵	2013年12月	「脆弱性をもつ世帯への災害の複合的影響:住宅・就労・ケア・移動にか	『季刊社会保障研究』49(3), 299-309.
445	その他		板倉有紀	2013年	「東日本大震災における「支援」と「ケア」	『社会学年報』42: 17-29.
446	その他		茅野恒秀	2014年3月	「固定価格買取制度(FIT)導入後の岩手県の再生可能エネルギー」	『サステナビリティ研究』4, 27-40.
447	その他		船橋晴俊	2014年3月	解題 地域に根ざした再生可能エネルギー振興の諸問題	サステナビリティ研究4, 3-5
448	その他		平井太郎	2013年5月	「広域災害における自治体間支援をめぐる社会学的課題-経験知と寄	『日本都市学会年報』46, 160-169.
449	その他		山崎美貴子・仁平典宏	2013年6月	「大震災から“かたり・つなぐ・くらし”へ」	日本福祉教育・ボランティア学習学会編『日本福祉教育・ボランティア学習学会編集紀要』21 pp.47-58
450	その他		山口博史	2013年8月	大規模災害後の留学生支援-居住と生活相談の側面から	名古屋大学留学生センター紀要, 11, 15-21
451	その他		菅磨志保	2014年3月	市民による被災者支援の可能性と課題:1.17から3.11へ	防災・減災のための社会安全学—安全・安心な社会の構築への提言, ミネルヴァ書房, 178-195
452	その他		西崎伸子・園田真理子・伊藤俊介	2013年12月	「露出する『か弱き個人』から新しい社会・建築像へ」	『建築雑誌』12月号, 23-27頁(座談会)
453	その他		内田龍史	2013年12月	「連載にあたって——被災地域と向き合う社会調査」	『ヒューマンライツ』12月号(部落解放・人権研究所)309, 28-29
454	その他		松井克浩	2013年4月	「「場所」をめぐる感情とつながり——災害による喪失と再生を手がかり	栗原隆編『感情と表象の生まれるところ』ナカニシヤ出版, 124-139頁
455	その他		伊藤憲二	2013年7月	「『国策の失敗軌道をどう転換するか』に関して科学史家に何ができるか	『年報 科学・技術・社会』22, 21-29

456	その他		松本三和夫	2013年9月	「構造災の社会学—「事務局問題」と責任帰属—」	『総合人間学—3・11を総合人間学から考える』7, 30-44	
457	その他		小松丈晃	2013年10月	「非知(Nichtwissen)をめぐる争いと科学／政治」	東北社会学研究会大会シンポジウム「東日本大震災以後の社会学理論の課題—リスクと機能分化」、東北大学、2013年10月19日	
458	その他		仁平典宏	2013年10月	「散乱するモデルの中にたたずむ——東日本大震災における複数のリ」	数理社会学会編『理論と方法』54号: 247-268.	
459	その他		松本三和夫	2013年11月	「構造災と責任帰属—制度化された不作為と事務局問題—」	環境社会学研究19, 20-44	
460	その他		Miwao Matsumoto	2013年12月	“ ‘Structural Disaster’ Long Before Fukushima: A Hidden Accident ”	Development & Society, 42(2), 165-190	
461	その他		松本三和夫	2014年3月	「構造災と制度設計の責任—社会学からみる制度化された不作為」	『学術の動向』3月号	
462	その他		平井太郎	2014年12月	「集合性」をめぐる豊かさ—「見えない」復興から学ぶ	NETT:North East Think Tank of Japan 87, 27-31	
463	その他		中澤秀雄	2015年2月	3・11は地域社会を変えたのか—政治と科学の再建が必要だ	Journalism 297, 125-132	
464	その他		Yuji Tateishi	2014年12月	Designing Dialogue Forums: Making a Connection between Techno-sci	East Asian Science, Technology and Society 8(4), 503-506	
465	その他		岩井紀子・宍戸邦章	2015年3月	東日本大震災と原発事故への社会学の取り組み—「震災問題情	災後の社会学3, 74-83	
466	その他		原口弥生	2014年4月	災害とサステナビリティ—災害リスク対応における社会的公正	ポスト震災社会のサステナビリティ学—地域と大学の新たな協働をめざして、国際文献社 207(121-122)	
467	その他		正村俊之	2014年4月	科学技術のリスクと機能分化の変容	社会学研究94,8-27	
468	その他		土屋葉	2014年7月	「東日本大震災における障害をもつ当事者による／への支援活動」	『東海社会学会年報』6, 25-43	
469	その他		土屋葉	2014年7月	「障害をもつ人への移動支援のあり方の検討——東日本大震災後の移	『文学論叢』150, 125-146.	
470	その他		船橋晴俊	2014年4月	日本学術会議による「原発災害からの回復と復興のために必要カ	学術の動向19(4), 60-65	
471	その他		原口弥生	2014年4月	災害とサステナビリティ—災害リスク対応における社会的公正	カール・ベッカー—他著『現代文明の危機と克服: 地域・地球的課題へのアプローチ』日本地域総合研究所、47-64	
472	その他		船橋晴俊	2014年4月	対談 核燃料サイクルの正体から政策決定の変革へ (特集 核燃料	科学84(5), 506-517	
473	その他		船橋晴俊	2014年6月	被災地再生のための「第三の道」と取り組み態勢の改革 (特集 3.1	学術の動向19(6), 82-87	
474	その他		Shujiro Yazawa	2014年7月	Japan Sociological Society: From a Sociology of Japanese Uniqueness	Messages to the World from Japanese Sociological and Social Welfare Societies 1,41-58	
475	その他		谷下雅義	2014年5月	東京における被災地を巡る議論—土木学会トークサロン 東日本	土木学会誌 99(5), 46-47.	
476	その他		Akihiko SATO, Ryosuke TAKAKI, Kahoruko YAMAMOTO, Yusuke YAMASHITA	2014年6月	Sociological Study of Nuclear Evacuation and the Role of Resea	SOCIOLOGY IN THE POST - DISASTER SOCIETY (Grant-in-Aid for Scientific Research (A) Reconstruction from the disaster project),143-158	
477	その他		小松丈晃	2014年4月	無知をめぐる争いと科学／政治(特集 東日本大震災以降の社会	社会学研究 94, 55-79	
478	その他		今井信雄	2014年5月	災害の記憶—写真・保存・時間の関係について	荻野昌弘、蘭信三編『3.11以前の社会学—阪神淡路大震災から東日本大震災へ』生活書院、第7章	
479	その他		岩永理恵	2015年7月	震災・原発事故と生活保護／世帯(特集 I 東日本大震災と社会的弱	東海社会学会年報7, 22-	

480	その他		Iwai, Noriko and Shishido, Kuniaki	2015年5月	The Impact of the Great East Japan Earthquake and Fukushima	Asian Journal for Public Opinion Research, 2(3):172-195. http://dx.doi.org/10.15206/ajpor.2015.2.3.172	全国
481	その他		岩井紀子・宍戸邦章	2015年9月	東日本大震災と福島原発事故に関する世論調査研究と社会学分	『東日本大震災研究交流会 研究報告書』震災問題情報連絡会、pp.1-4.	全国
482	その他		岩井紀子・宍戸邦章	2017年3月	東日本大震災と福島原発事故に関する社会学の研究動向からの問い	『第2回 東日本大震災研究交流会 研究報告書』震災問題情報連絡会、pp.65-68.	全国
483	その他		岩井紀子・宍戸邦章	2018年3月	原発避難自治体の住民意向調査にみる帰還意識の推移とJGSSでみる原	『第3回 東日本大震災研究交流会 研究報告書』震災問題情報連絡会、pp.19-24. https://greatearthquakeresearchne /研究報告書/	全国
484	その他		Iwai, Noriko and Shishido, Kuniaki	2018年7月	Gender Differences in Attitudes Toward the Nuclear Power Policies and in	XIX ISA World Congress of Sociology, RC39 Sociology of Disasters, Tronto	
485	その他		岩井紀子・宍戸邦章	2018年10月	JGSSでみる大規模災害発生のリスク認知と原子力政策に関する意識お	『第4回 東日本大震災研究交流会 研究報告書』震災問題情報連絡会、pp.100-105. https://greatearthquakeresearchne	全国